

事業方針	事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新制度の施行による施設機能の多様化への対応・・・満3歳児希望者が就労だけでなく、子どもの課題や親子のかかわりなどに対応できる機能を持つため2歳児保育へ広げるよりもまずは満3歳児対応を考えていく</li> <li>・子育ての対応について不安を持っている保護者については積極的にかかわるとともに専門機関へつなげた</li> <li>・安全対策について定期的にBCP研修を行う</li> <li>・教職員の働き方について、就業規則を再度全員で確認する</li> </ul>	
	H30の決算より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「バスキャッチ」を導入。アプリで預かり保育、出欠席の対応を始める。次年度より始まる無償化対策における事務の軽減を図るとともにバスの運行状況や所在場所が瞬時にわかるようになった</li> <li>・バスに無線機を搭載することで従来の「まもり〜な」よりも鮮明で即座の対応ができるようになった。また地震発生について即座にアラームで知らせる装置を合わせて設置した</li> </ul>	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	満3歳児教育の充実  小学校との接続	満3歳児教育の充実を図る。教職員の研修参加により環境設定を改善した  年長参観会の機会をとらえて教育要領の改訂と学習指導要領の改訂による求められる能力について、わかりやすく伝える
2	研究計画	指導方法のスキルアップ  安全対策BCP研修	免許更新講座を受講したものをはじめ、研修の機会を多くとらえてスキルアップに努めた  安全対策について、災害が起きた時の祖組織対応まで含めて研修会を行う(次年度継続)
3	地域連携計画	地域の自然を学ぶ  地域の人を対象とした講座の開催	ネイチャーゲームを中心に園庭の自然とかかわる活動がすすむ 教員の経験年数により、受容性のある活動や教材の工夫、クラスだよりの発行が見られる  祖父母において参観会時においても積極的な参加、かかわりが見られるようになり、引き続き実施するとともに内容の検討をしていく
4	施設設備計画	園庭整備	ビオトープを中心とした園庭の整備計画を検討しているが適切な専門業者が見つからず再検討を要する。保護者より30年度の夏の暑さよりエアコンの設置を求める声があり次年度の事業として検討する。
5	管理運営計画	消防計画等  職員の役割分担の再編成	消防計画、自信避難計画、洪水時避難計画等安全にかかわる計画を再編成した  専門職としてのキャリアイメージを作ることが必要。特に計画性とチームワークについての学びが必要
6	財務計画	施設の多機能化を視野に入れて、シミュレーションを多くとり今後の判断に生かす	見学等も行い幼稚園による小規模保育所の経営なども検討したが、負担が大きいためまた新制度園を選択せずに行うことは財政負担が大きいため、慎重な検討が必要